

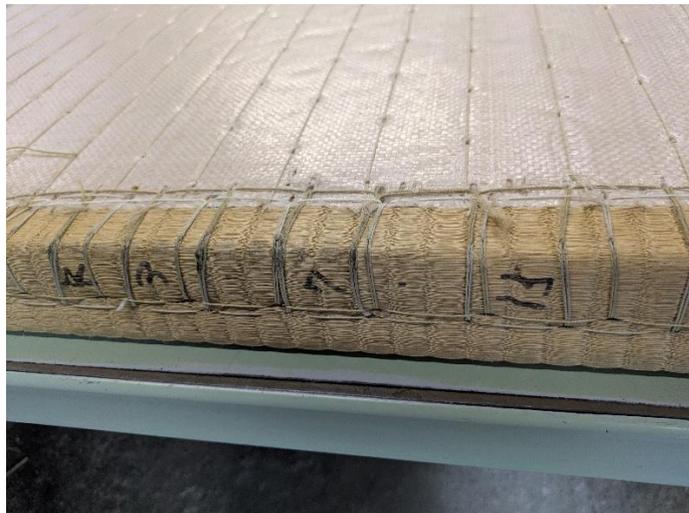
畳の裏返し作業

裏返しとは今お使いの畳を解いて畳表（ござ）を表裏反対にして畳床に縫い付けて新しい畳縁を縫い付ける事です。

裏返しの目安は、畳の新調または表替をしてから3～5年くらいです。



裏返しする前の畳です。



前回、表替したのが4年前の令和3年7月15日です。



框（かまち）を縫い付ける機械の上に畳を置いて框（かまち）を縫う作業から始めます。



框（かまち）を縫い付けた糸を解くために畳の裏面を上に出します



これから框（かまち）を縫い付けた糸を解きます



まず最初に框の両端の縁を留めているタッカーの針を外します。



タッカーの針を外しました。



框を縫い付けている糸を切ります。
この時、畳床を縫っている糸も一緒に切らないように十分注意します



框を縫い付けている糸を解きました。



反対側の框を縫い付けている糸も解き終わりました



再び畳の表面を上にして畳縁を外します。



畳縁と畳表の間に包丁を入れて縫い付けた糸を解きます。



畳表から畳縁が外れました。



畳床の側面と畳縁を縫い付けた糸を解きます。



畳縁を外しました。

畳表の黄色くなっているのは藁草が日に当たって退色した為です。

青っぽい部分は畳縁の付いていた所であまり退色はしていません。



畳縁が両方外れました。

この時に畳の框と壁や畳の間に隙間がある場合は隙間を埋める補修を、また畳床の表面に凸凹が目立つ場合も補修をします。



畳表（ゴザ）を裏表ひっくり返しました。



右側が畳表の裏側、左側が畳表の表側（退色しています）です。



これから裏返した畳表を
框に縫い付けます。



まず初めに片方の框の
両端を針で留めます。



反対側の框の両端も針
で留めます。



四カ所を針で留めました。
イ筋（藺草の筋）の確認をします。



イ筋がずれないように
針を多く留めてから畳
表を押さえます。



框をミシンで縫い付け
ます。



縫い終わりました。

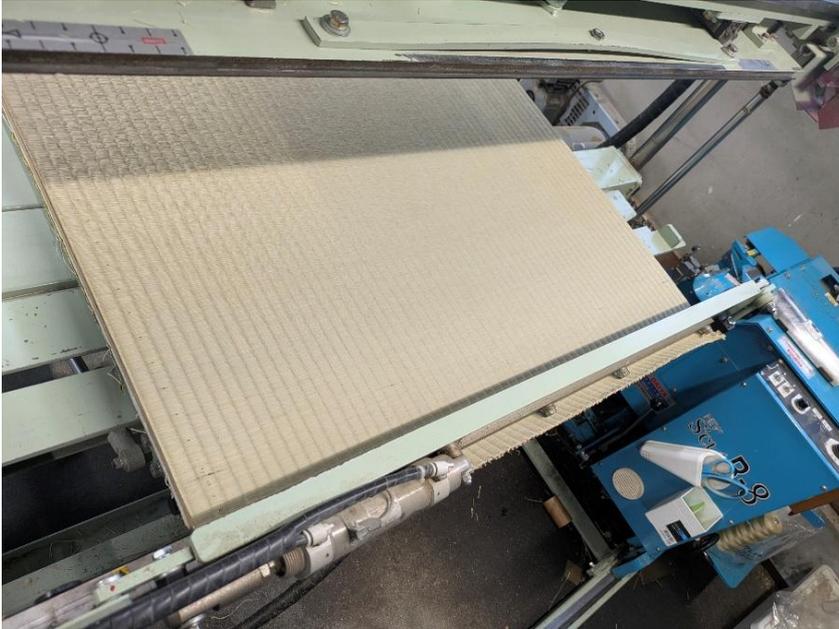


今度は反対側の框を縫い付けます。



表張り機に畳表を挟みます。

この時にイ筋が揃っているか再確認します。



畳表を張りました。



畳表を張った状態で畳表を押さえます。



框をミシンで縫い付けます。



裏返しの框縫い作業が
完成です。



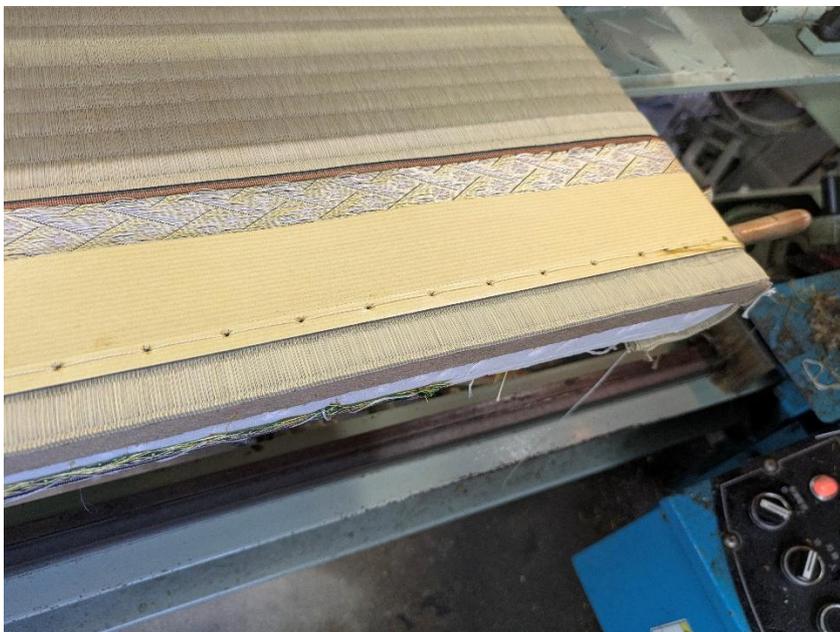
裏返しをした日付を書
いておきます



次に両用機という機械
を使って新しい畳縁を
縫い付けます。



畳に畳縁と縁下紙をセットしてミシンで平刺し縫いをします。



平刺し縫いが終わりました。

次に縁下紙と畳縁を折り返して畳の端に沿って形をつけます。



畳の隅（畳縁の両端）を折り曲げて針で留めます。
畳を作る上でこの作業は重要で出来が悪いと畳の見栄えも変わります。



畳の隅が解けないよう
タッカーを打ち付けま
す。

糸で縫い留めることも
あります。



畳縁の浮いた所をミシ
ンで縫い付けます。
これを返し縫いと言
います。



同じように反対側の畳
縁も縫い付けました。



畳の縁付け作業が終わりました。



畳の裏返しが完成しました。

畳表がささくれて藁草が服などに付く頃までお使い頂けます。